CLT デザインコンペ　2017　住宅部門

組み板架構体の家

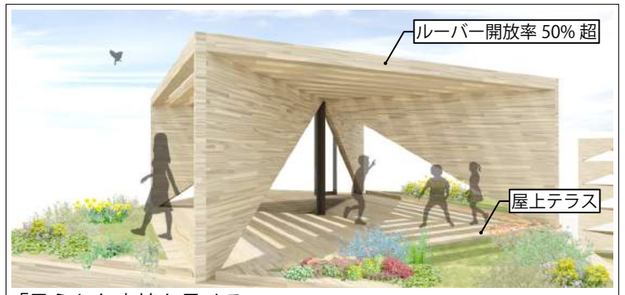
木材の素朴さと力強さを兼ね備えた建築を計画したいと考えています。その純粋さが、街の中に建ち現れる事により、新しい CLT 建築が世の中に浸透していくと思っています。厚みのある大きな板である CLT の特徴を活かすと同時に、周辺環境と馴染む家として計画しました。暖炉に薪をくべるように、少ない部材で大きな空間を得るように板を組み上げていく架構体の建築を提案をします。

この架構体は、斜めに切り取られた開口を持ちます。住まい手は斜めに切り取られた開口の高低によってつくられる効果的に閉じたり開いたりする空間の中で様々な居場所を見つけながら生活していきます。

建物の構成は、1 階に玄関ホール、ミニダイニング、寝室、水廻り、事務所スペースなどの機能的な室を配置します。2 階にはリビングダイニングを配置し、吹抜とつなぐことで気積の大きな豊かな空間としました。これらの空間は、斜めに切り取られた開口によって、緩やかに結びつけられ、住まい手は家族の気配を感じながら暮らすことができます。

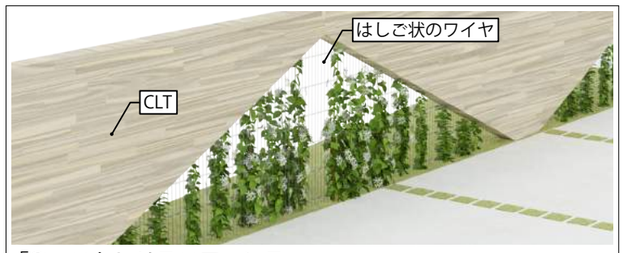
この組み板架構体の家は住まい手の暮らしを豊かなものとし、同時に周辺環境と緩やかにつながることによって街並に新たな風景をつくり出してゆくことになります。

そして、提案にあたり、次のことを念頭に計画しています。
◇ CLT ならではの特徴的な形態とすること
◇設計条件に柔軟に対応可能で多様な空間を想起できる建物とすること
◇モデルハウスとして、来訪者が住みたくなるような印象的な建物とすること



「柔らかな表情を見せる」
屋上テラスは緑化・菜園を施し、草花と、建物の木質の柔らかな存在感を合わせることで、建物全体の調和を図ります。

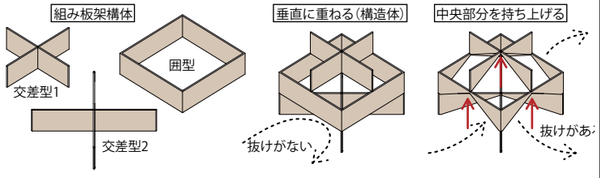
「生活の中心を 2 階に持ち上げる」
道路から高さ方向へ距離を取り、斜め開口により適切な開放性を確保しつつ落ち着きのある居住空間をつくります。



「CLT ×トレリス×フェンス」
敷地全体に CLT の壁状工作物（トレリスフェンス）の設置を計画します。そこにツタ性植物を植栽します。はしご状のワイヤを設置し、登はん性を確保し、適切な密度を持った緑化壁面をつくります。周囲への圧迫感の軽減、境界の仕切り、車の排ガスを同時に解決する提案です。

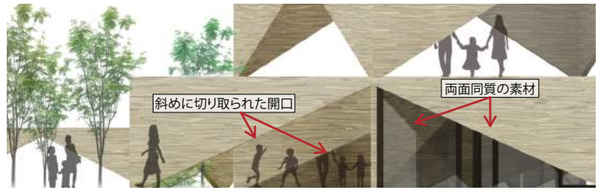
01 CLT がつくるカタチ
CLT の特徴を活かしたデザインの考え方

精度が高く大面材の製作が可能な CLT の特徴を活かし、少ない部材で大きな空間を作ります。短辺が 2.7m の板を交差型、囲型に組んだ架構体を用意し、重ねることで上下左右に空間が連続する構造体が形成されます。架構体の中央を持ち上げ、人、空気、風、視線が抜ける開口を調節します。出来上がる形は単純な構成で多様な居場所、様々な表情を生み出します。



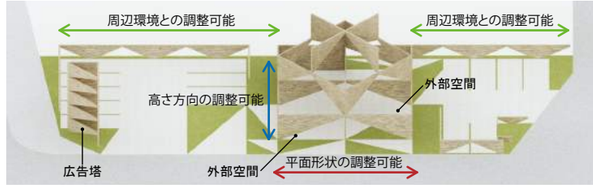
02 つながる居住空間
組み板架構体の連続がつくる空間の考え方

「内・外部同素材の仕上げ」の連続は内・外部の境界を曖昧にし、視覚的に周辺環境を取り込んでいきます。「斜めに切り取られた開口」は視点によって変化する向こう側の気配を感じとりながら適切な距離感を取ることができます。２つの特徴を持つ組み板架構体を連続させることにより、外部と内部、内部と内部を緩やかににつないでいきます。



03 フレキシブルなシステム
敷地形状や要求に応える空間構成の考え方

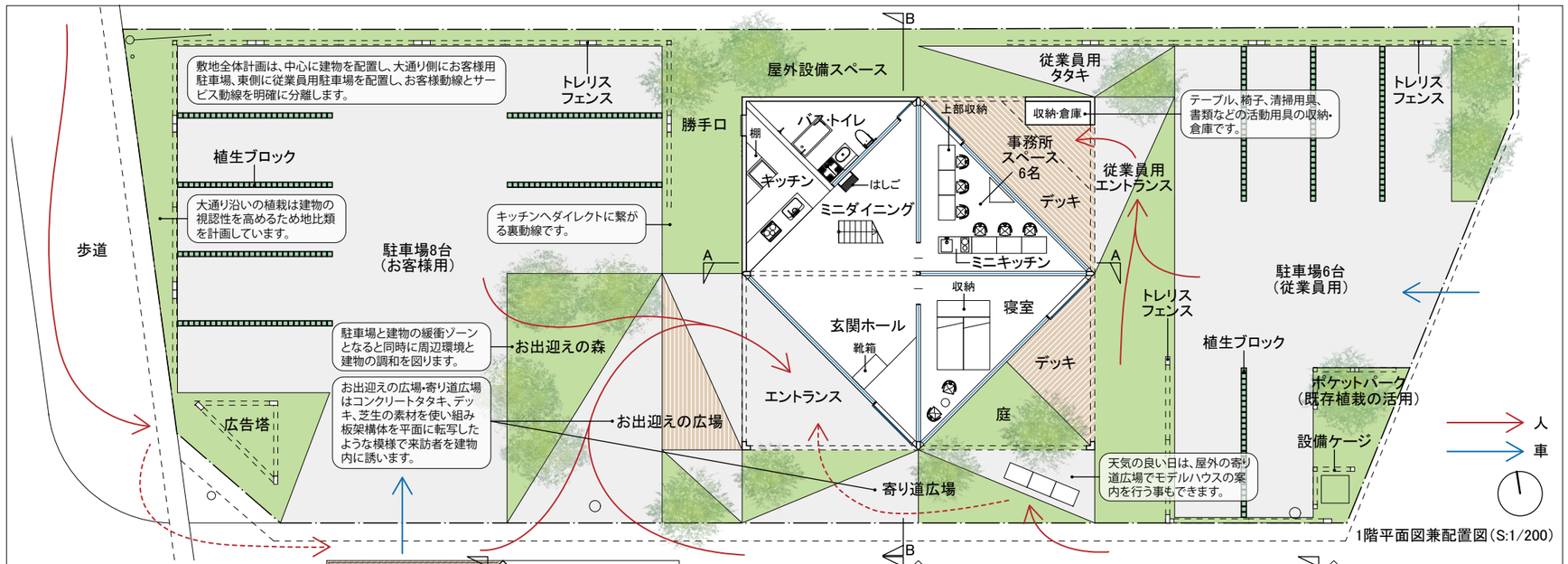
空間構成は、一つのあり方にフィックスしたものではなく、この住宅を実現するためのシステムであり、将来継続して実現していくためのフレキシブルなシステムの提案です。組み板架構体は点対称の平面計画であるため、条件に応じた平面計画・階数の調整が可能です。外部空間にも架構体を緩衝帯として拡げることにより、周辺環境との調和を図ります。



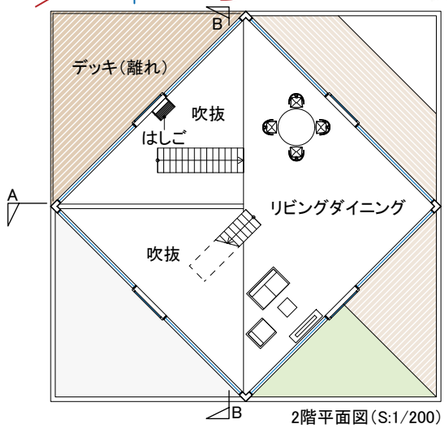
04 アイコンとしての建築
人々の心に残るわかりやすい建築のあり方

建物の立面はグラフィカルな三角形の連なりとして見えてきます。視点によって、3 次元で建ち上がる建築が 2 次元的な立面として現れるこの単純な幾何学文様は、憶えやすいアイコンとして通りがかる人々の記憶に残ります。CLT の特徴である板形状と重なり、将来的にこの住宅シリーズのシンボルマークとして発展していくことを考えています。

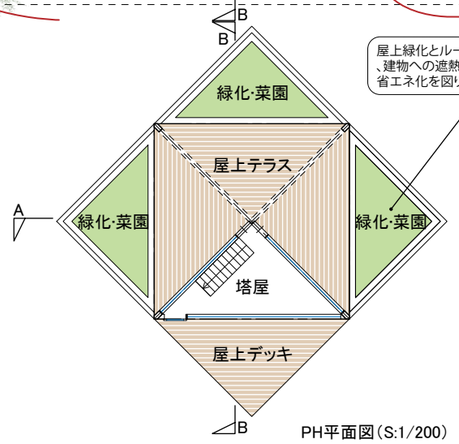
東側から見た立面イメージ　南東側から見た立面イメージ



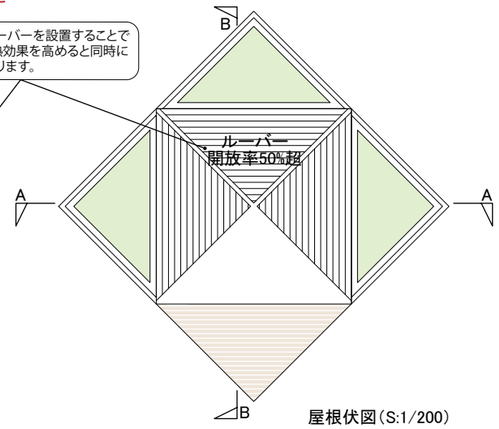
1階平面図兼配置図（S:1/200）



2階平面図（S:1/200）



PH平面図（S:1/200）

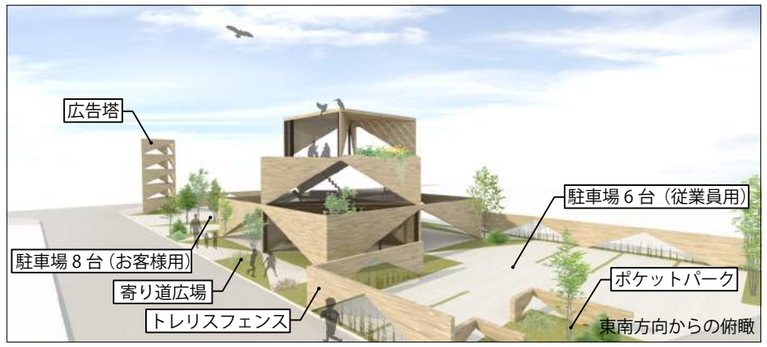


屋根伏図（S:1/200）

面積表（㎡）

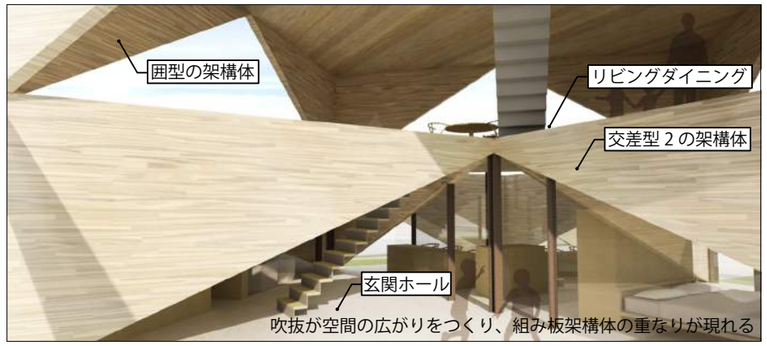
	面積
1 階	100.80
2 階	42.34
塔屋	9.66
延床面積	152.80
建築面積	100.80

建ぺい率	12.24%
容積率	18.55%
敷地面積	824.04

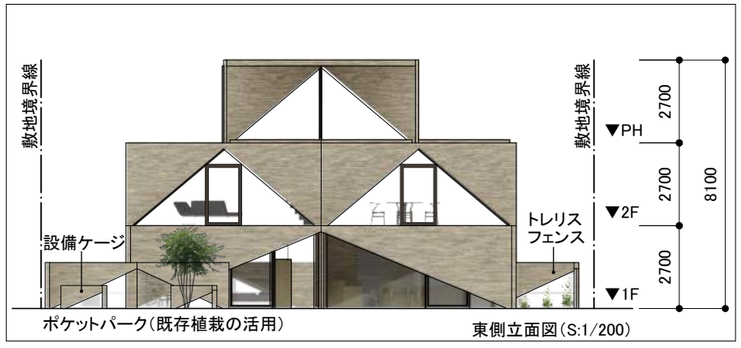


東南方向からの俯瞰

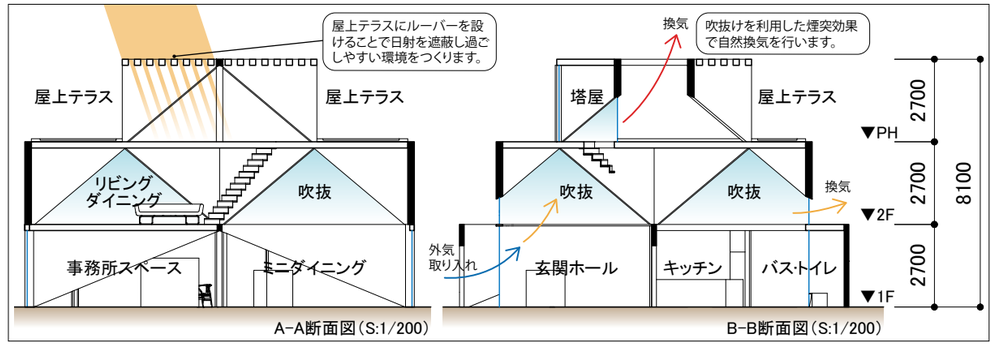
東側から建物を見る



吹抜が空間の広がりをつくり、組み板架構体の重なりが現れる

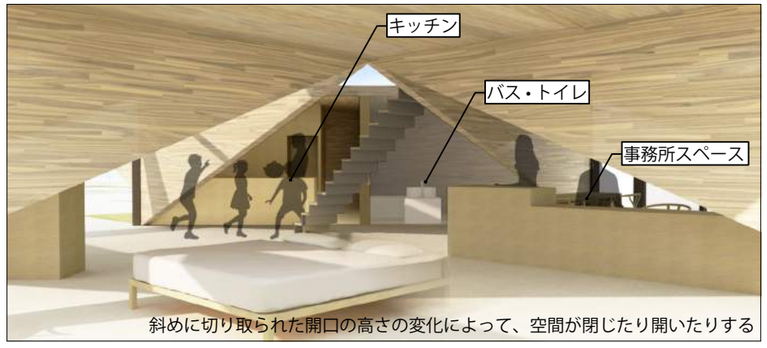


東側立面図（S:1/200）

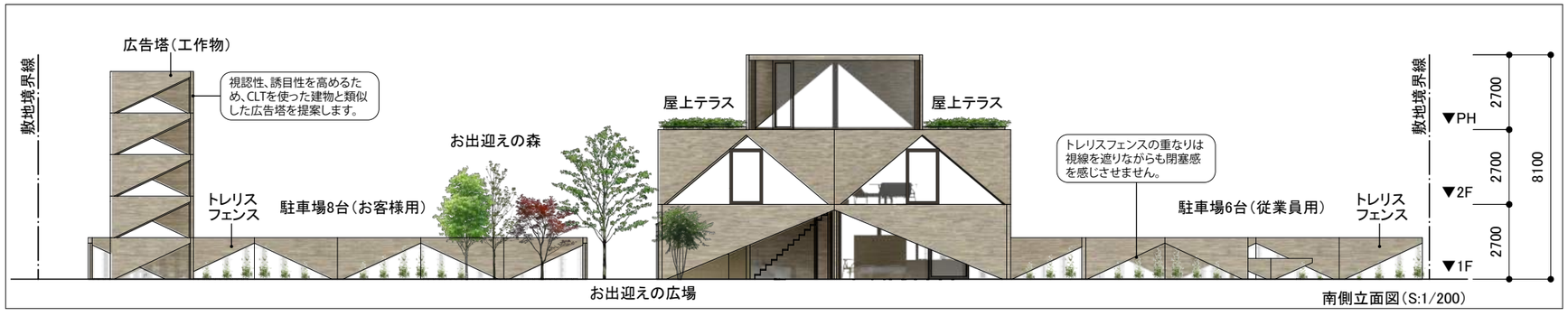


A−A断面図（S:1/200）

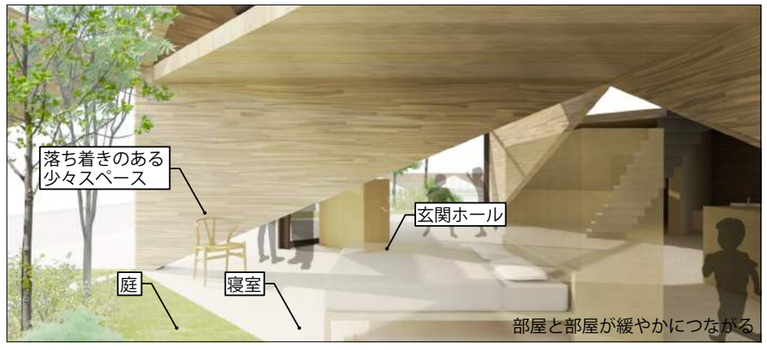
B−B断面図（S:1/200）



斜めに切り取られた開口の高さの変化によって、空間が閉じたり開いたりする



南側立面図（S:1/200）



部屋と部屋が緩やかにつながる